



プレスリリース  
2005年6月21日

## リバティ・アライアンス、 「メッセージング・サービス・インターフェース仕様グループ」設立を発表

新インターフェースでエンドユーザーのプライバシーを保護し、  
モバイル・サービス・プロバイダーのコンテンツ配信をサポート

世界から 150 以上の企業・団体が参加するアイデンティティ管理と連携サービス技術の標準化団体リバティ・アライアンス・プロジェクト(Liberty Alliance Project)は 6 月 20 日(米国時間)、SMS(ショート・メッセージ・サービス)と MMS(マルチメディア・メッセージング・サービス)を含むコンテンツのメッセージング向けサービス・インターフェース開発を目的としたチームを設立すると発表しました。この仕様は、リバティのアイデンティティ・ウェブ・サービス・フレームワーク(ID-WSF)上で使用されるもので、モバイル機器のユーザーにはプライバシーを保護したメッセージングを、サービス・プロバイダーにはビジネスチャンスの増大をそれぞれ提供するものです。

コンテンツのメッセージング(着メロ、表示画像切替、壁紙、その他のプレミアム・サービス)は、特にヨーロッパで急成長中のビジネスです。こうしたコンテンツを入手するため、ユーザーがSMSやMMSを使用することが急速に増えています。このビジネスモデルは単純です。コンテンツ・プロバイダーが提供できるコンテンツを宣伝し、そのコンテンツを欲しいと思うユーザーはSMS、あるいはMMSのテキスト・メッセージを送信します。そのメッセージを受け取ったコンテンツ・プロバイダーは、要求されたコンテンツを暗号化し、一連のSMSメッセージにして、ユーザーに送信します。

リバティ・アライアンスのバイス・プレジデントで、ノキアのウェブ・サービス・ディレクターであるティモ・スキッタ(Timo Skytta)は、「このビジネスは、モバイル事業者にとっても、コンテンツ・プロバイダーにとっても、大きな収入源となっていますが、一方でプライバシー侵害と迷惑メールが増大する恐れがあります。ユーザーの電話番号がコンテンツ・プロバイダーに直接伝わるため、コンテンツ・プロバイダーは電話番号を他者に提供したり、売ったりすることが簡単にできるからです。リバティのチームは、プライバシーを保護し、コンテンツ・プロバイダーのビジネスチャンスを増大させ、相互運用性を増大させ、インテグレーションが容易な強力なサービス・インターフェース仕様を開発して、サービス・プロ

バイダーがプライバシーを尊重しながら共同で複数の配信ができるようにする考えです」と語っています。

コンテンツSMS&MMS (CSM) サービス・インターフェース仕様は、コンテンツ・プロバイダーがモバイル・ネットワークへアクセスできるように設計され、SMSとMMSのメッセージをユーザーに送り、また、ユーザーから受け取れるようにします。そうすることで、ユーザーは匿名でコンテンツを入手できるようになり、ユーザーの携帯電話番号や住所がコンテンツ・プロバイダーに知られることがなくなります。この仕様は、リバティの既存のアイデンティティ管理機能を活用するもので、コンテンツ・プロバイダー毎に異なるユーザー・アイデンティティ、こうした識別子の定期的更新、コンテンツ・プロバイダーとの連携をユーザーが終了する機能といった特色を持つこととなります。リバティはすでにベスト・プラクティス・ガイドラインと仕様を策定済みですが、これはすでに完了している仕事を補完するもので、リバティの仕様を採用することでヨーロッパのプライバシー保護規制に企業が対応できるように、リバティが追加開発をおこなうものです。

メッセージング・サービス仕様の概念実証アプリケーションのデモが2005年6月15日、メッセージング・グループの会合で実施されました。TrustgenixとVodafoneが開発したアイデンティティ対応ウェブ・サービスでは、モバイルサービスの契約者は、自分の携帯電話やパソコンのウェブ・ブラウザで、自分の電話番号は知られずに、サードパーティのプロバイダーにコンテンツを注文することができます。このアプリケーションは、リバティとSAMLの現在の連携規格に基づくものです。

リバティ・アライアンスのエグゼクティブ・ディレクターのドナル・オーシェ(Donal O'Shea)は「プライバシー保護という重要な機能に加え、この新インターフェースはすべてのインターフェースを標準化するので、コンテンツ・プロバイダーはひとつのインターフェースを使用すれば十分で、色々な規格を使用する必要がなくなります。これでユーザーにとっても、プロバイダーにとっても、パートナーにとっても、ウェブ・サービスのメリットが、真の意味で活かされることとなります。リバティ・アライアンスの会員企業が推進するサービス・インターフェースの第7次仕様に当たるこのインターフェースにより、ウェブ・サービス仕様の標準化団体としてのリバティの指導的地位が一段と向上することとなります。アイデンティティは、すべての決済にとって、どのネットワークやどの機器を使用しても、共通の基準となっており、この点から、プライバシーとユーザー・コントロールが不可欠な場合に企業がリバティ仕様を採用する主な理由となっています」と語っています。

リバティ・アライアンスのすべてのレベルの会員企業は、サービス・インターフェース仕様の開発に参加することができます。CSMメッセージング・サブチームの現在のメンバー企業は、Ericsson、Neustar、Sun、Symlabs、Telefonica Móviles、Trustgenix、Vodafoneとなっています。

## リバティ ID-WSF について

リバティのアイデンティティ・ウェブ・サービス・フレームワーク(ID-WSF)は、Webサービスの発展をサポートします。Webサービスでは、認証、セキュリティ、サービス・ディスカバリー、サービス・ポリシー

など、多くの標準規格が必要です。リバティ ID-WSF はこうした機能を提供して、安全で、プライバシーを保護し、豊かで、相互運用性を持つ Web サービスの発展に寄与します。

### リバティ・アライアンス・プロジェクトについて

リバティ・アライアンス・プロジェクト([www.projectliberty.org](http://www.projectliberty.org)) は、世界中から 150 以上の企業・団体が参加している非営利・非政府の組織です。コンソーシアムの目的は、既存および新規のあらゆるネットワークデバイスをサポートする連携ネットワークアイデンティティのオープン・スタンダードを開発することです。連携アイデンティティは、企業、政府機関、従業員、および一般の消費者に今日のデジタル社会におけるアイデンティティ情報をコントロールするより便利で安全な方法を提供するとともに、Web ベースのサービスは言うまでもなく、電子商取引、個人データサービスの利用を促進する重要な要素です。メンバーシップはすべての営利団体および非営利団体に開かれています。

※本文中の社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

\*\*\*\*\*

このプレスリリースに関するお問い合わせは下記へお願い致します

■ 株式会社 井之上パブリックリレーションズ

リバティ・アライアンス 広報担当 鈴木／リットウイン／平出

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-34 新宿御苑前アネックスビル6F

TEL:03-5269-2301 / FAX:03-5269-2305 E-mail : [liberty@inoue-pr.com](mailto:liberty@inoue-pr.com)